

JR東海労なごや

2013年3月16日 No. 950
JR東海労名古屋地方本部
発行者：山田哲也
編集者：堀部肇

お客様の利便より業務の効率化を優先するJR東海会社 飯田線94駅のうち、直営駅は 豊橋、辰野を含めてわずか6駅のみ！

JR東海は、今年4月から飯田線において9駅の営業体制の見直しを行います。「乗客の減少に伴い線路維持のため効率化」が理由です。沿線7市町の自治体と協議の結果、5駅を人件費負担自治体に押しつけた簡易委託駅にして、それ以外の4駅を無人駅にすることが決まりました。

簡易委託となる駒ヶ根駅



★簡易委託駅は

市田駅・伊那大島駅・飯島駅
駒ヶ根駅・伊那松島駅

★無人駅は

鼎駅・元善光寺駅・沢渡駅・伊那北駅

私たちは、これまで高山線・中央線・飯田線で駅の簡易委託化・無人化に対して、サービスの低下、地域の過疎化、地元の雇用機会を奪う、異常時の対応、安全に問題があるとしてピウ配りを行うなど無人化反対の取り組みをしてきました。

効率化はリニア建設のため

いまJR東海会社はリニアの建設費を捻出するために、様々な業務の効率化、労働強化、福利厚生の見直し及び廃止を行っています。そして、駅の業務委託化解消を通じ沿線の自治体と利用者にも費用の出費と不便さを強要してきています。

利益は誰のために

伊那北駅では高校生などの利用が多く、1日1000人もの乗降があります。しかし、伊那北駅は無人化になりました。過去最高の利益を上げながら、リニア建設の為に閑散線区の多くの人々を犠牲にした施策は傲慢であり問題です。

JR東海には国鉄から民営化された時、利用者に不便をかけないと約束した社会的使命があるのではないのでしょうか。

効率化・利益優先の企業に対し、私たちJR東海労は一番苦勞し、犠牲となる人々の為に闘います。